

令和2年10月30日  
統計部公表

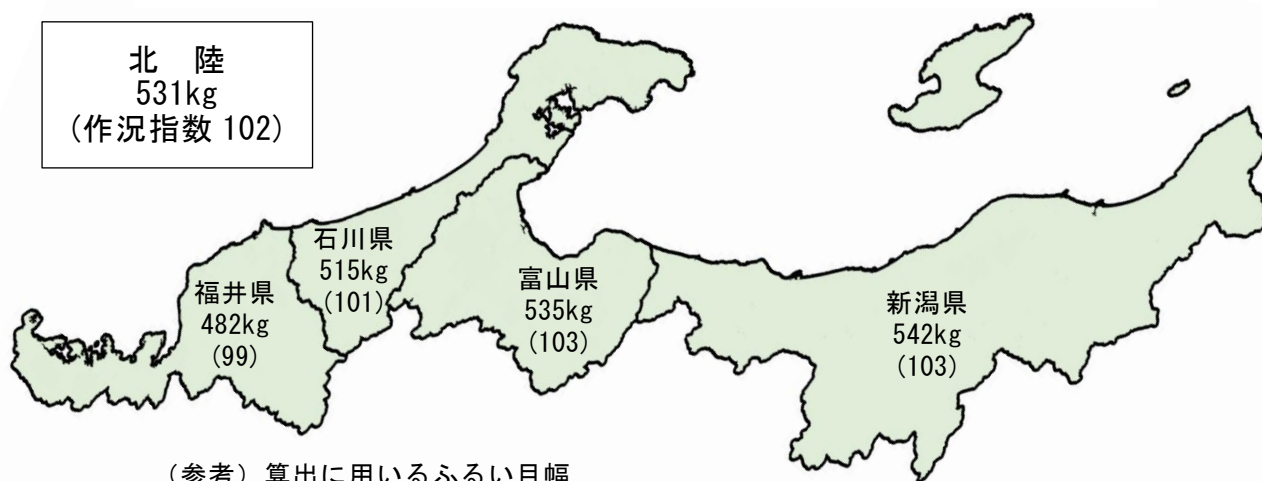
## 令和2年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）（北陸）

－ 10a 当たり予想収量は531kg、作況指数は102の見込み －

### 【調査結果の概要】

- 令和2年産水稻の作付面積（子実用）は20万6,400haで、うち主食用作付面積は18万5,900haとなった。  
また、予想収穫量（子実用）は113万5,000tで、うち主食用の予想収穫量は102万1,000tが見込まれる。
- 農家等が使用しているふるい目幅ベースの10a 当たり予想収量は531kgで、作況指数は102が見込まれる。  
これは、全もみ数がやや多く、登熟は出穂期以降が高温多照で経過したためである。

図1 県別10a 当たり予想収量及び作況指数（10月15日現在）  
〈農家等が使用しているふるい目幅ベース〉



(参考) 算出に用いるふるい目幅

新潟県	富山県	石川県	福井県
1.85mm	1.90mm	1.85mm	1.90mm

- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 予想収穫量（子実用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a 当たり予想収量及び作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅の分布において、県別に最も大きい割合のふるい目幅（上記（参考）の表による。）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。  
なお、北陸値は、各県別の作付面積（子実用）ウェイトによる加重平均により算出した。

本資料は、北陸農政局ホームページ中の「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/2020yotei.html> 】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎累年データ

水稻の年次別推移（北陸）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用	主食用 作付面積			収 穫 量 (主食用)		
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 22 年産	213,000	210,900	526	1,109,000	198,300	1,043,000	99
23	212,900	208,800	537	1,122,000	195,500	1,050,000	101
24	213,400	209,400	545	1,141,000	194,100	1,057,000	102
25	215,100	212,700	545	1,160,000	193,900	1,058,000	102
26	215,500	212,500	536	1,139,000	190,000	1,019,000	100
27	214,100	207,800	531	1,104,000	184,100	977,800	99
28	213,400	205,600	567	1,165,000	182,100	1,031,000	107
29	212,500	204,100	529	1,079,000	180,100	952,100	98
30	212,700	205,600	533	1,096,000	184,800	985,300	98
令和 元	212,800	206,500	540	1,115,000	186,400	1,007,000	101
2 (見込み)	212,300	206,400	550	1,135,000	185,900	1,021,000	102

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。  
 2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
 3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。  
 4 算出した作況指数は、  
 ・平成26年産以前は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出  
 ・平成27年産から令和元年産までは、北陸地域の農家等が過去5か年間に実際に使用したふるい目幅の分布の9割を占めるふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出  
 ・令和2年産は、各県ごとの農家等が過去5か年間に実際に使用したふるい目幅の分布の最も大きい割合のふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出

水稻の年次別推移（新潟県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用	主食用 作付面積			収 穫 量 (主食用)		
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 22 年産	119,600	117,900	524	617,800	108,600	569,100	97
23	120,000	117,400	538	631,600	108,100	581,600	100
24	120,100	117,500	558	655,700	107,300	598,700	104
25	121,100	119,700	555	664,300	107,100	594,400	103
26	121,700	120,100	547	656,900	105,300	576,000	101
27	121,300	117,500	527	619,200	102,400	539,600	97
28	121,300	116,800	581	678,600	101,500	589,700	108
29	120,900	116,300	526	611,700	100,300	527,600	96
30	121,500	118,200	531	627,600	104,700	556,000	95
令和 元	121,900	119,200	542	646,100	106,800	578,900	100
2 (見込み)	121,800	119,500	558	666,800	106,700	595,400	103

◎累年データ（続き）

水稲の年次別推移（富山県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用				主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 22 年産	39,900	39,800	538	214,100	38,100	205,000	101
23	39,600	38,900	551	214,300	36,500	201,100	103
24	39,800	39,000	536	209,000	36,300	194,600	100
25	40,200	39,700	546	216,800	36,300	198,200	102
26	40,200	39,500	541	213,700	35,700	193,100	101
27	39,500	38,600	559	215,800	34,200	191,200	103
28	39,300	38,100	566	215,600	33,800	191,300	106
29	39,100	37,600	546	205,300	33,300	181,800	100
30	38,900	37,300	552	205,900	33,300	183,800	102
令和 元	38,900	37,200	553	205,700	33,300	184,100	102
2(見込み)	38,900	37,100	556	206,300	33,200	184,600	103

水稲の年次別推移（石川県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用				主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 22 年産	26,600	26,400	524	138,300	25,500	133,600	101
23	26,500	26,000	528	137,300	25,200	133,100	102
24	26,800	26,400	526	138,900	25,100	132,000	101
25	27,000	26,700	522	139,400	25,000	130,500	101
26	27,000	26,600	508	135,100	24,300	123,400	98
27	26,700	26,100	522	136,200	23,600	123,200	101
28	26,400	25,600	534	136,700	23,200	123,900	104
29	26,100	25,300	519	131,300	23,200	120,400	99
30	25,800	25,100	519	130,300	23,200	120,400	100
令和 元	25,600	25,000	532	133,000	22,700	120,800	102
2(見込み)	25,400	24,800	530	131,400	22,600	119,800	101

水稲の年次別推移（福井県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用				主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 22 年産	27,000	26,800	518	138,800	26,100	135,200	100
23	26,800	26,500	523	138,600	25,600	133,900	101
24	26,700	26,400	519	137,000	25,400	131,800	100
25	26,900	26,500	526	139,400	25,600	134,700	102
26	26,600	26,200	510	133,600	24,700	126,000	98
27	26,400	25,600	518	132,600	23,900	123,800	99
28	26,300	25,100	535	134,300	23,600	126,300	104
29	26,300	24,900	525	130,700	23,300	122,300	101
30	26,400	25,000	530	132,500	23,600	125,100	101
令和 元	26,400	25,100	520	130,500	23,600	122,700	100
2(見込み)	26,200	25,100	518	130,000	23,300	120,700	99

## 【北陸地域の調査結果】

- 令和2年産水稻の作付面積(子実用)は20万6,400ha(前年産に比べ100ha減少)となった。  
また、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は18万5,900haとなった。
- 水稻作付面積(子実用)に10a当たり予想収量(1.70mm)を乗じた予想収穫量(子実用)は113万5,000t(前年産に比べ2万t増加)、うち、主食用は102万1,000tが見込まれる。
- 10月15日現在における水稻の作柄は、7月は長雨により日照が少なかったものの、田植期以降6月まではおおむね高温多照で経過したことから、初期生育は順調であったことに加え、8月の出穂期以降は高温多照で経過したため、全もみ数は「やや多い」となり、登熟は「平年並み」となった。  
以上の結果、農家等が使用しているふるい目幅ベース(以下、「ふるい目幅ベース」という。)の10a当たり予想収量は、531kg(前年産に比べ9kg増加)が見込まれる。  
また、作況指数は102が見込まれる。
- ふるい目幅別重量分布状況は、1.85mm以上の玄米の重量割合は97.2%、1.90mm以上は95.1%で、直近5か年平均値に比べ、それぞれ0.6ポイント、1.0ポイント高くなっている。
- 玄米品位の状況は、整粒の割合が67.6%で、前年産に比べ3.2ポイント高くなっている。

表1 令和2年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)

区 分	作付面積(子実用)			10a当たり予想収量(1.70mm)		予想収穫量(子実用)			参 考	
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較 対 差	実 数 ③=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ④	予想収穫量 (主食用) ⑤=②×④
		対 差	対 比				対 差	対 比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
北 陸	206,400	△ 100	100	550	10	1,135,000	20,000	102	185,900	1,021,000
新 潟 県	119,500	300	100	558	16	666,800	20,700	103	106,700	595,400
富 山 県	37,100	△ 100	100	556	3	206,300	600	100	33,200	184,600
石 川 県	24,800	△ 200	99	530	△ 2	131,400	△ 1,600	99	22,600	119,800
福 井 県	25,100	0	100	518	△ 2	130,000	△ 500	100	23,300	120,700

注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
2 作付面積(子実用)及び主食用作付面積は、ラウンドしているため、県ごとの積上げ値が北陸値と一致しない場合がある。  
3 予想収穫量(子実用)及び予想収穫量(主食用)の北陸値は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

表2 令和2年産水稻の10a当たり予想収量及び作柄概況(10月15日現在)

区 分	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況(平年比較)				
	最も 大きい割 合の目幅	10a当たり予想収量		10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数 の多少	登熟の良否
		実 数 ①	前年産との比較 対 差						
	mm	kg	kg	kg					
北 陸	...	531	9	519	102	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
新 潟 県	1.85	542	12	527	103	やや少ない	多い	やや多い	平年並み
富 山 県	1.90	535	7	519	103	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
石 川 県	1.85	515	0	509	101	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
福 井 県	1.90	482	△ 2	486	99	平年並み	やや多い	平年並み	やや不良

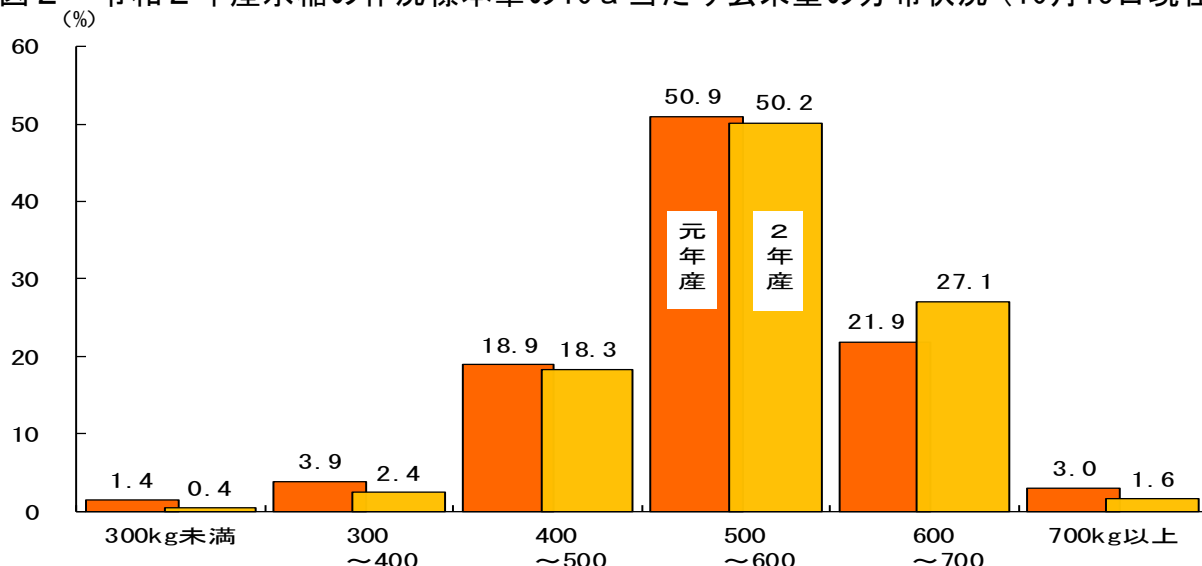
注： 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%に相当する。

表3 令和2年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布割合（10月15日現在）

区 分	単 位	計	ふるい目幅別重量分布状況						
			1.70mm以上 1.75mm未満	1.75mm ～1.80mm	1.80mm ～1.85mm	1.85mm ～1.90mm	1.90mm ～2.00mm	2.00mm 以上	
北 陸	重量割合	%	100.0	0.5	1.0	1.3	2.1	12.0	83.1
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.4	△ 2.4	3.4
新 潟 県	重量割合	%	100.0	0.5	1.0	1.4	2.1	12.4	82.6
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.5	△ 2.3	3.5
富 山 県	重量割合	%	100.0	0.4	0.7	0.9	1.8	9.9	86.3
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.4	△ 0.6	△ 5.3	6.7
石 川 県	重量割合	%	100.0	0.6	1.0	1.2	1.9	10.6	84.7
	対平均差	ポイント	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	△ 0.9	0.6
福 井 県	重量割合	%	100.0	0.9	1.4	1.8	2.9	14.5	78.5
	対平均差	ポイント	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.2	0.1	△ 0.1

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。  
 2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

図2 令和2年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（10月15日現在、北陸）



注：10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

表4 令和2年産水稻の玄米品位の状況（10月15日現在、北陸）

区 分	単 位	整 粒	未熟粒	被害粒		
				乳白粒・腹白粒	死米・着色粒	
重量割合	%	67.6	24.5	3.1	7.9	0.8
前年値	%	64.4	23.8	6.5	11.8	1.0
対前年差	ポイント	3.2	0.7	△ 3.4	△ 3.9	△ 0.2

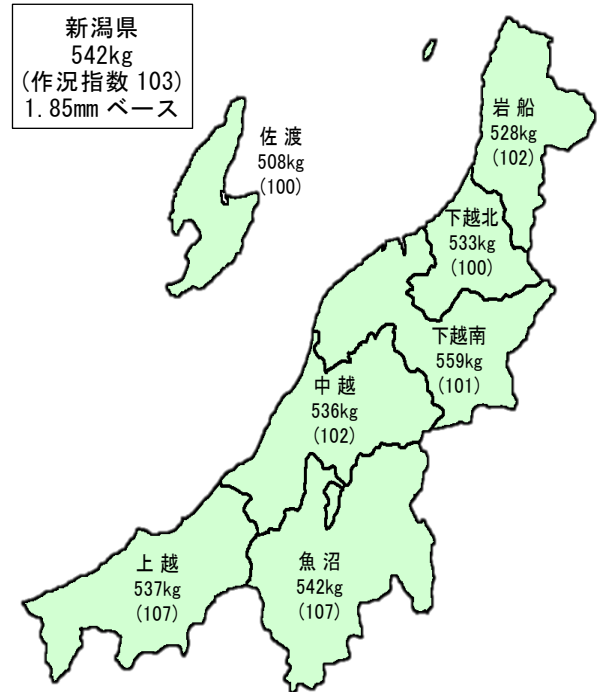
注：作況基準筆等の刈取試料を穀粒判別器を用いて品位分析したものである。

## 【管内各県の調査結果】

### 1 新潟県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は11万9,500ha（前年産に比べ300ha増加）となった。  
このうち、主食用作付面積は10万6,700haとなった。
- (2) 水稻作付面積（子実用）に10 a 当たり予想収量（1.70mm）を乗じた予想収穫量（子実用）（以下、「予想収穫量（子実用）」という。）は、66万6,800 t（前年産に比べ2万700 t 増加）が見込まれる。  
このうち、主食用は59万5,400 t が見込まれる。
- (3) 田植期以降の初期生育は順調で、7月は日照不足であったものの、1穂のもみ数が多かったため、全もみ数は「やや多い」となり、登熟は、出穂期以降が高温多照で経過したことから「平年並み」となった。  
以上の結果、ふるい目幅ベース（1.85mm）の10 a 当たり予想収量は542kg（前年産に比べ12kg増加）で、作況指数は103が見込まれる。

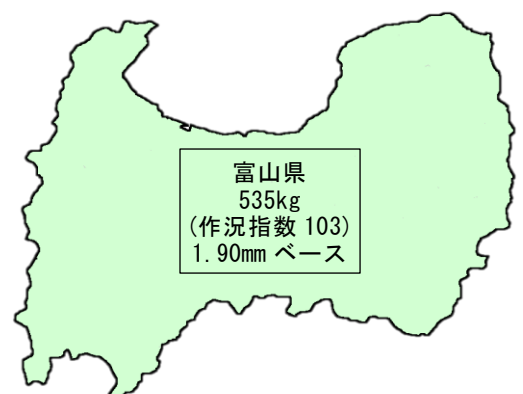
図3  
新潟県の作柄表示地帯別  
10 a 当たり予想収量及び作況指数  
（10月15日現在）



### 2 富山県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は3万7,100ha（前年産に比べ100ha減少）となった。  
このうち、主食用作付面積は3万3,200haとなった。
- (2) 予想収穫量（子実用）は、20万6,300 t（前年産に比べ600 t 増加）が見込まれる。  
このうち、主食用は18万4,600 t が見込まれる。
- (3) 田植期以降の初期生育は順調で、7月は日照不足であったものの、穂数がやや多かったため、全もみ数は「やや多い」となり、登熟は、出穂期以降が高温多照で経過したことから「平年並み」となった。  
以上の結果、ふるい目幅ベース（1.90mm）の10 a 当たり予想収量は535kg（前年産に比べ7 kg増加）で、作況指数は103が見込まれる。

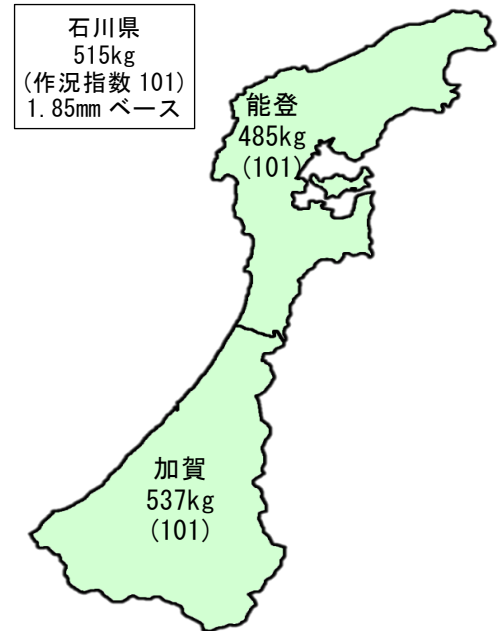
図4  
富山県の10 a 当たり予想収量及び  
作況指数（10月15日現在）



### 3 石川県

- (1) 水稻の作付面積(子実用)は2万4,800ha(前年産に比べ200ha減少)となった。  
このうち、主食用作付面積は2万2,600haとなった。
- (2) 予想収穫量(子実用)は、13万1,400t(前年産に比べ1,600t減少)が見込まれる。  
このうち、主食用は11万9,800tが見込まれる。
- (3) 田植期以降の初期生育は順調で、7月は日照不足であったものの影響は少なく、全もみ数は「平年並み」となり、登熟は、8月中旬以降が高温多照で経過したことから「やや良」となった。  
以上の結果、ふるい目幅ベース(1.85mm)の10a当たり予想収量は515kg(前年産と同様)で、作況指数は101が見込まれる。

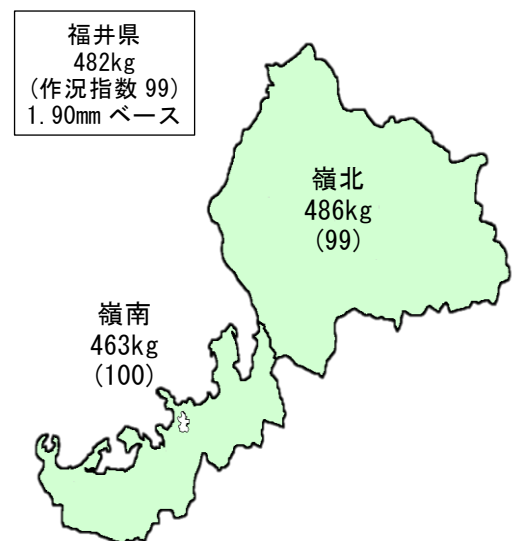
図5  
石川県の作柄表示地帯別  
10a当たり予想収量及び作況指数  
(10月15日現在)



### 4 福井県

- (1) 水稻の作付面積(子実用)は2万5,100ha(前年産と同様)となった。  
このうち、主食用作付面積は2万3,300haとなった。
- (2) 予想収穫量(子実用)は、13万t(前年産に比べ500t減少)が見込まれる。  
このうち、主食用は12万700tが見込まれる。
- (3) 田植期以降の初期生育は順調で、7月は日照不足であったものの影響は少なく、全もみ数は「平年並み」となり、登熟は、9月中下旬の降雨による倒伏や日照不足により緩慢となったことから「やや不良」となった。  
以上の結果、ふるい目幅ベース(1.90mm)の10a当たり予想収量は482kg(前年産に比べ2kg減少)で、作況指数は99が見込まれる。

図6  
福井県の作柄表示地帯別  
10a当たり予想収量及び作況指数  
(10月15日現在)



【統計表】

1 令和2年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

区分	作付面積（子実用）			10a当たり予想収量（1.70mm）		予想収穫量（子実用）			参 考	
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産との比較 対差	実数 ③=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ④	予想収穫量 （主食用） ⑤=②×④
		対差	対比				対差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
北 陸	206,400	△ 100	100	550	10	1,135,000	20,000	102	185,900	1,021,000
新潟県	119,500	300	100	558	16	666,800	20,700	103	106,700	595,400
岩船	6,420	30	100	549	0	35,200	100	100	...	...
下越北	17,200	100	101	552	△ 10	94,900	△ 1,200	99	...	...
下越南	34,700	100	100	575	8	199,500	3,300	102	...	...
中越	25,000	0	100	553	17	138,300	4,300	103	...	...
魚沼	15,400	△ 100	99	557	36	85,800	5,000	106	...	...
上越	15,200	200	101	553	50	84,100	8,600	111	...	...
佐渡	5,620	△ 60	99	522	4	29,300	△ 100	100	...	...
富山県	37,100	△ 100	100	556	3	206,300	600	100	33,200	184,600
石川県	24,800	△ 200	99	530	△ 2	131,400	△ 1,600	99	22,600	119,800
加賀	14,500	0	100	550	△ 8	79,800	△ 1,100	99	...	...
能登	10,300	△ 100	99	502	7	51,700	200	100	...	...
福井県	25,100	0	100	518	△ 2	130,000	△ 500	100	23,300	120,700
嶺北	21,400	△ 100	100	524	△ 2	112,100	△ 1,000	99	...	...
嶺南	3,640	0	100	487	0	17,700	0	100	...	...

- 注：1 10a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
 2 作付面積（子実用）及び主食用作付面積は、ラウンドしているため、県ごとの積上げ値が北陸値と一致しない場合がある。  
 3 予想収穫量（子実用）及び予想収穫量（主食用）の北陸値は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

2 令和2年産水稻の10a 当たり予想収量及び作柄概況（10月15日現在）

区分	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）			
	最も 大きい割 合の目幅	10a 当 たり 予想収 量 ①	10a 当 たり 平年収 量 ②	作況指 数 ③=①/②	穂数の多 少	1 穂当 たり もみ数 の多 少	全もみ 数の多 少	登熟の良 否
	mm	kg	kg					
北 陸	...	531	519	102	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
新潟県	1.85	542	527	103	やや少ない	多い	やや多い	平年並み
岩船		528	520	102	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
下越北		533	533	100	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
下越南		559	552	101	やや少ない	多い	平年並み	平年並み
中越		536	523	102	やや少ない	多い	多い	やや不良
魚沼		542	507	107	やや多い	多い	多い	やや不良
上越		537	501	107	平年並み	多い	多い	平年並み
佐渡		508	508	100	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
富山県	1.90	535	519	103	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
石川県	1.85	515	509	101	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
加賀		537	531	101	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
能登		485	479	101	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福井県	1.90	482	486	99	平年並み	やや多い	平年並み	やや不良
嶺北		486	490	99	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良
嶺南		463	461	100	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み

- 注：1 「農家等が使用しているふるい目幅ベースの10a 当たり収量」とは、都道府県別に最も大きい割合のふるい目幅以上で選別された玄米を基に算出した数値である。  
 なお、北陸値は、各県別の作付面積（子実用）ウェイトによる加重平均により算出した。  
 2 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比 106%以上、「やや良・やや多い」が 105~102%、「平年並み」が 101~99%、「やや不良・やや少ない」が 98~95%、「不良・少ない」が 94%以下に相当する。



### 3 令和2年産水稻の刈取期及び刈取済面積割合（10月15日現在）

区分	刈 取 期					刈取済面積割合	
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		%	
				対平年差	対前年差		
	月 日	月 日	月 日				
<b>北 陸</b>	<b>8. 30</b>	<b>9. 17</b>	<b>10. 3</b>	<b>1日早</b>	<b>1日遅</b>	<b>99</b>	
<b>新 潟 県</b>	<b>9. 5</b>	<b>9. 19</b>	<b>10. 4</b>	<b>2日早</b>	<b>並 み</b>	<b>99</b>	
岩 船	9. 7	9. 25	10. 7	並 み	2日遅	100	
下越北	9. 6	9. 21	10. 4	1日早	並 み	100	
下越南	9. 5	9. 16	9. 30	2日早	並 み	100	
中 越	9. 1	9. 17	9. 28	並 み	2日遅	100	
魚 沼	9. 9	9. 19	10. 10	6日早	3日早	98	
上 越	9. 4	9. 20	10. 10	並 み	並 み	98	
佐 渡	9. 8	9. 21	10. 10	6日早	2日早	99	
<b>富 山 県</b>	<b>8. 22</b>	<b>9. 16</b>	<b>10. 2</b>	<b>1日遅</b>	<b>5日遅</b>	<b>99</b>	
<b>石 川 県</b>	<b>8. 25</b>	<b>9. 10</b>	<b>9. 28</b>	<b>1日早</b>	<b>1日早</b>	<b>100</b>	
加 賀	8. 22	9. 7	9. 25	1日早	1日早	100	
能 登	8. 27	9. 14	10. 2	1日早	並 み	100	
<b>福 井 県</b>	<b>8. 18</b>	<b>9. 11</b>	<b>10. 1</b>	<b>並 み</b>	<b>並 み</b>	<b>100</b>	
嶺 北	8. 18	9. 11	10. 1	並 み	並 み	100	
嶺 南	8. 18	9. 11	10. 1	並 み	1日遅	100	

注： 刈取期の始期、最盛期、終期とは、刈取済面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

## 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている（16ページ「収穫量調査の流れ」参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取済みの地域について、ふるい目幅の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

### 4 令和2年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況（10月15日現在）

区 分	単位	計	ふるい目幅別重量分布状況						
			1.70mm以上 1.75mm未満	1.75mm ～1.80mm	1.80mm ～1.85mm	1.85mm ～1.90mm	1.90mm ～2.00mm	2.00mm 以上	
北 陸	重量割合	%	100.0	0.5	1.0	1.3	2.1	12.0	83.1
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.4	△ 2.4	3.4
新 潟 県	重量割合	%	100.0	0.5	1.0	1.4	2.1	12.4	82.6
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.5	△ 2.3	3.5
岩 船	重量割合	%	100.0	0.6	1.3	1.9	3.8	18.1	74.3
	対平均差	ポイント	0.0	0.0	0.1	0.2	1.4	4.0	△ 5.7
下 越 北	重量割合	%	100.0	0.6	1.2	1.6	2.4	12.8	81.4
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.4	△ 2.4	3.4
下 越 南	重量割合	%	100.0	0.5	0.9	1.3	1.9	11.8	83.6
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.7	△ 3.8	5.4
中 越	重量割合	%	100.0	0.6	1.1	1.4	1.9	11.0	84.0
	対平均差	ポイント	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.4	△ 2.4	3.2
魚 沼	重量割合	%	100.0	0.5	0.9	1.3	1.9	12.2	83.2
	対平均差	ポイント	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	0.4
上 越	重量割合	%	100.0	0.5	1.0	1.4	2.2	13.1	81.8
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.4	△ 2.0	3.3
佐 渡	重量割合	%	100.0	0.4	0.9	1.4	2.4	14.5	80.4
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.4	△ 0.9	△ 1.3	△ 1.4	△ 6.0	10.0
富 山 県	重量割合	%	100.0	0.4	0.7	0.9	1.8	9.9	86.3
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.4	△ 0.6	△ 5.3	6.7
石 川 県	重量割合	%	100.0	0.6	1.0	1.2	1.9	10.6	84.7
	対平均差	ポイント	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	△ 0.9	0.6
加 賀	重量割合	%	100.0	0.5	0.8	1.0	1.5	8.6	87.6
	対平均差	ポイント	0.0	0.1	0.1	0.0	△ 0.2	△ 1.2	1.2
能 登	重量割合	%	100.0	0.7	1.2	1.5	2.4	13.8	80.4
	対平均差	ポイント	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	△ 0.3	0.0
福 井 県	重量割合	%	100.0	0.9	1.4	1.8	2.9	14.5	78.5
	対平均差	ポイント	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.2	0.1	△ 0.1
嶺 北	重量割合	%	100.0	0.9	1.5	1.9	3.0	14.9	77.8
	対平均差	ポイント	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	△ 0.8
嶺 南	重量割合	%	100.0	0.6	1.0	1.3	2.1	12.1	82.9
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.5	△ 2.3	3.8

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

5 令和2年産水稻玄米のふるい目幅別10a当たり収量（10月15日現在） 単位：kg

区 分	1.70mm以上	1.75mm以上	1.80mm以上	1.85mm以上	1.90mm以上	2.00mm以上
北 陸	550	547	542	535	523	457
新 潟 県	558	555	550	542	530	461
岩 船	549	546	539	528	507	408
下越北	552	549	542	533	520	449
下越南	575	572	567	559	549	481
中 越	553	550	544	536	525	465
魚 沼	557	554	549	542	531	463
上 越	553	550	545	537	525	452
佐 渡	522	520	515	508	495	420
富 山 県	556	554	550	545	535	480
石 川 県	530	527	522	515	505	449
加 賀	550	547	543	537	529	482
能 登	502	498	492	485	473	404
福 井 県	518	513	506	497	482	407
嶺 北	524	519	511	501	486	408
嶺 南	487	484	479	473	463	404

注： ふるい目幅別の10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことであり、10a当たり予想収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

6 令和2年産水稻玄米のふるい目幅別収穫量（子実用）（10月15日現在） 単位：t

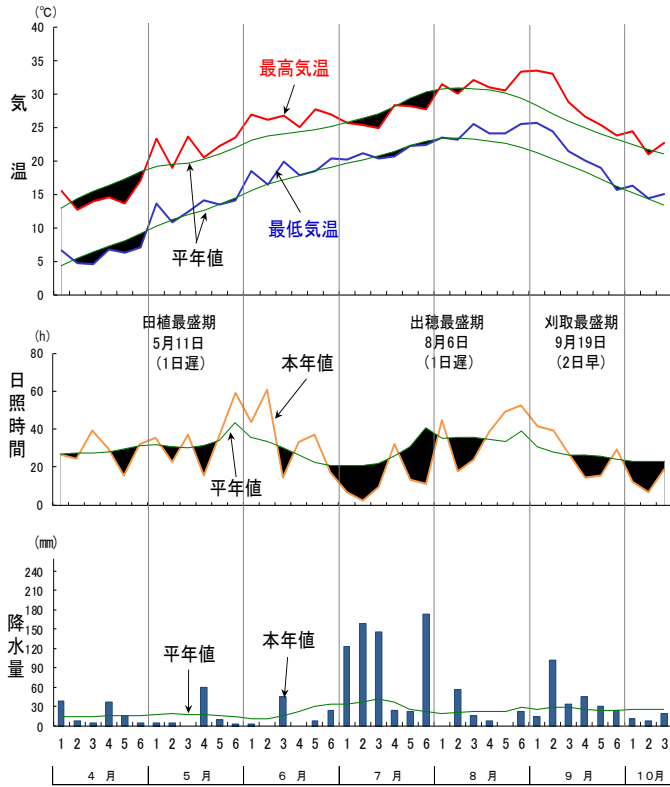
区 分	1.70mm以上	1.75mm以上	1.80mm以上	1.85mm以上	1.90mm以上	2.00mm以上
北 陸	1,135,000	1,129,000	1,118,000	1,103,000	1,079,000	943,200
新 潟 県	666,800	663,500	656,800	647,500	633,500	550,800
岩 船	35,200	35,000	34,500	33,900	32,500	26,200
下越北	94,900	94,300	93,200	91,700	89,400	77,200
下越南	199,500	198,500	196,700	194,100	190,300	166,800
中 越	138,300	137,500	135,900	134,000	131,400	116,200
魚 沼	85,800	85,400	84,600	83,500	81,900	71,400
上 越	84,100	83,700	82,800	81,700	79,800	68,800
佐 渡	29,300	29,200	28,900	28,500	27,800	23,600
富 山 県	206,300	205,500	204,000	202,200	198,500	178,000
石 川 県	131,400	130,600	129,300	127,700	125,200	111,300
加 賀	79,800	79,400	78,800	78,000	76,800	69,900
能 登	51,700	51,300	50,700	49,900	48,700	41,600
福 井 県	130,000	128,800	127,000	124,700	120,900	102,100
嶺 北	112,100	111,100	109,400	107,300	103,900	87,200
嶺 南	17,700	17,600	17,400	17,200	16,800	14,700

注： ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

◎関連データ  
令和2年アメダス半旬別気象グラフ

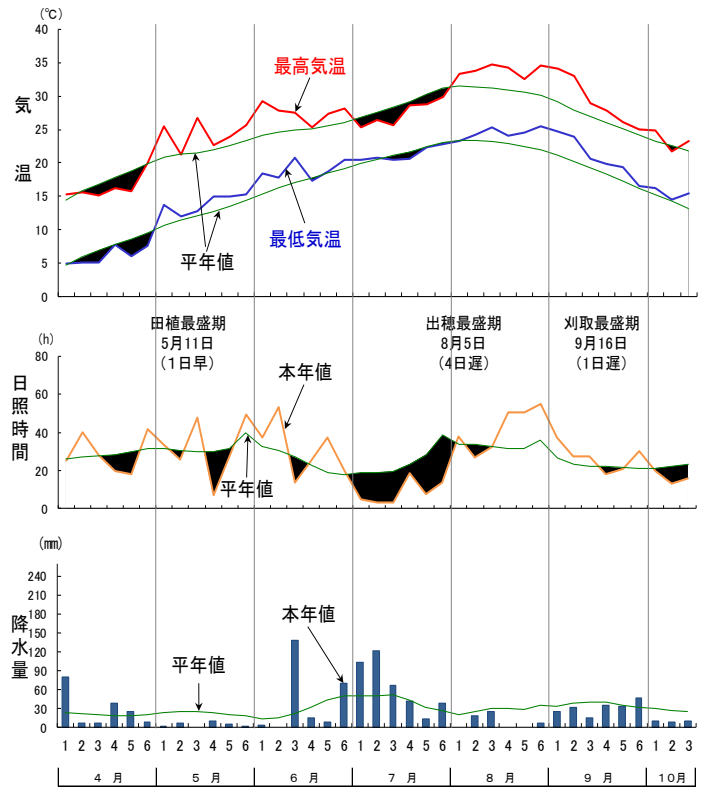
1 新潟

令和2年 アメダス半旬別気象グラフ(新潟)



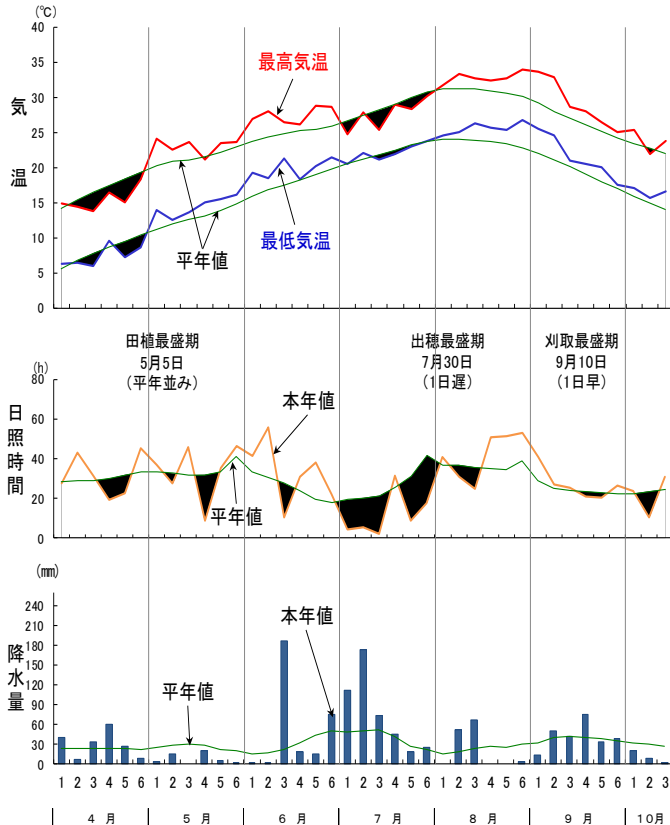
2 富山

令和2年 アメダス半旬別気象グラフ(富山)



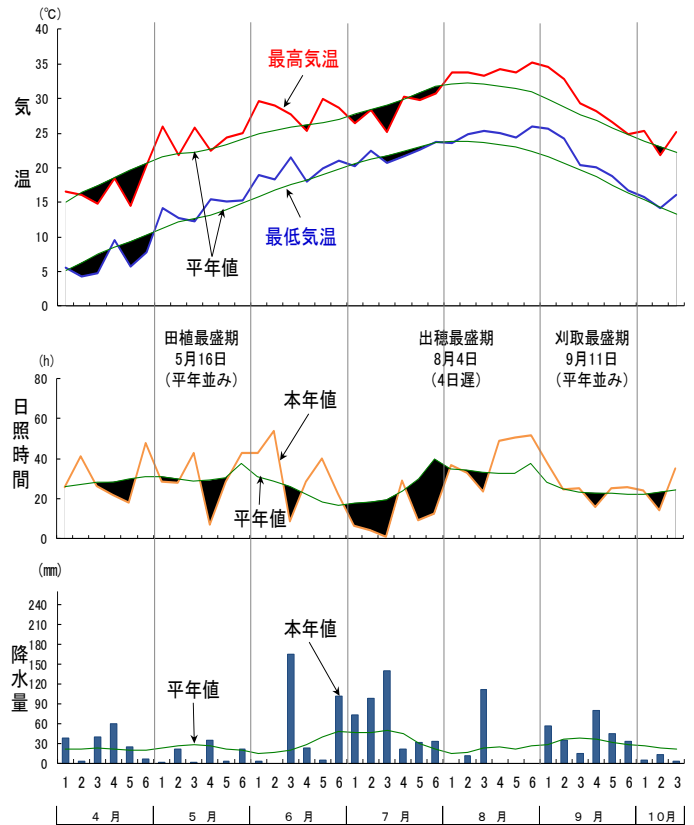
3 金沢

令和2年 アメダス半旬別気象グラフ(金沢)



4 福井

令和2年 アメダス半旬別気象グラフ(福井)



## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び予想収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

### 2 調査の対象

#### (1) 調査対象の選定

##### ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された全ての耕地

##### イ 予想収穫量調査

水稻が栽培されている耕地

#### (2) 調査対象数

##### ア 作付面積調査

北 陸 標本単位区：3,451単位区

新潟県 標本単位区：1,682単位区

富山県 標本単位区：704単位区

石川県 標本単位区：574単位区

福井県 標本単位区：491単位区

##### イ 予想収穫量調査

北 陸 作況標本筆：1,110筆 作況基準筆：25筆

新潟県 作況標本筆：440筆 作況基準筆：13筆

富山県 作況標本筆：220筆 作況基準筆：3筆

石川県 作況標本筆：220筆 作況基準筆：5筆

福井県 作況標本筆：230筆 作況基準筆：4筆

※作況基準筆は、地域の代表的なほ場を有意に選定し、水稻の草丈、茎数、穂数、一穂当たりもみ数等について測定を行い、本年の気象経過による作柄及び被害の特徴とその原因を把握する。

### 3 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況等

### 4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和2年7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：令和2年10月15日現在

### 5 調査・集計方法

#### (1) 作付面積調査

##### ア 母集団の編成

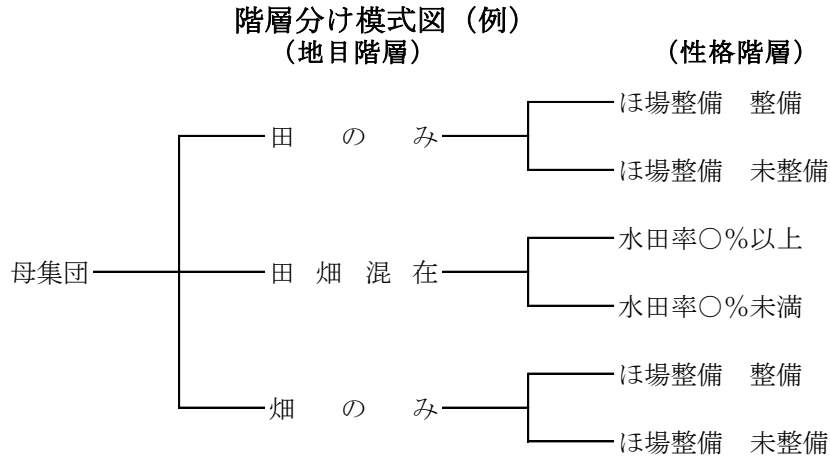
空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区（区画内に存する耕地の筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）について、面積調査用の地理情報システム

により、地目（田又は畑）等の情報が登録されている。）の集まりを母集団（全国約 290 万単位区）としている。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報に補正することにより整備している。

イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、そのそれぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類している。



ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の水稻作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに調査対象数を配分し、系統抽出法により抽出する。

エ 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稻が作付けされている全ての筆について、1筆ごとに作付けの状況及びその範囲を確認する。

オ 推定

面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況水稻作付見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の田台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（田台帳面積に対する実面積の比率）を乗じることにより、全体の面積を推定している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況水稻作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

カ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

(2) 予想収穫量調査

ア 母集団

(1)のイにより、「田のみ階層」及び「田畑混在階層」の地目階層に分類される単位区を母集団としている。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設

定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

#### ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の標本数を階層別に水稻の作付面積に10a当たり収量の母標準偏差を乗じた積に比例して配分する。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積（田台帳面積）に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稻が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆（実測調査を行う筆）とする。

#### エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

#### オ 10a当たり玄米重の算定

##### (ア) 予想収穫量調査（調査期日において収穫期を迎えていないもの）

刈取りが行われる前に調査を実施するため、穂数、1穂当たりもみ数及び千もみ当たり収量のうち実測可能な項目については実測値、実測が不可能な項目については過去の気象データ、実測データを基に作成した予測式により算定した推定値を用いることとし、これらの数値の積により10a当たり玄米重を予測する。

##### (イ) 収穫量調査（調査期日において収穫期を迎えているもの）

各作況標本筆について、一定株数（1㎡分×3か所の株数）の稲を刈取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米（農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの）となるように選別し、10a当たり玄米重を決定する。

#### カ 10a当たり収量の推定

各作況標本筆の10a当たり玄米重の平均を基に、都道府県別の10a当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率（コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス）や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10a当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆（10a当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。）の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

#### キ 収穫量及び被害量

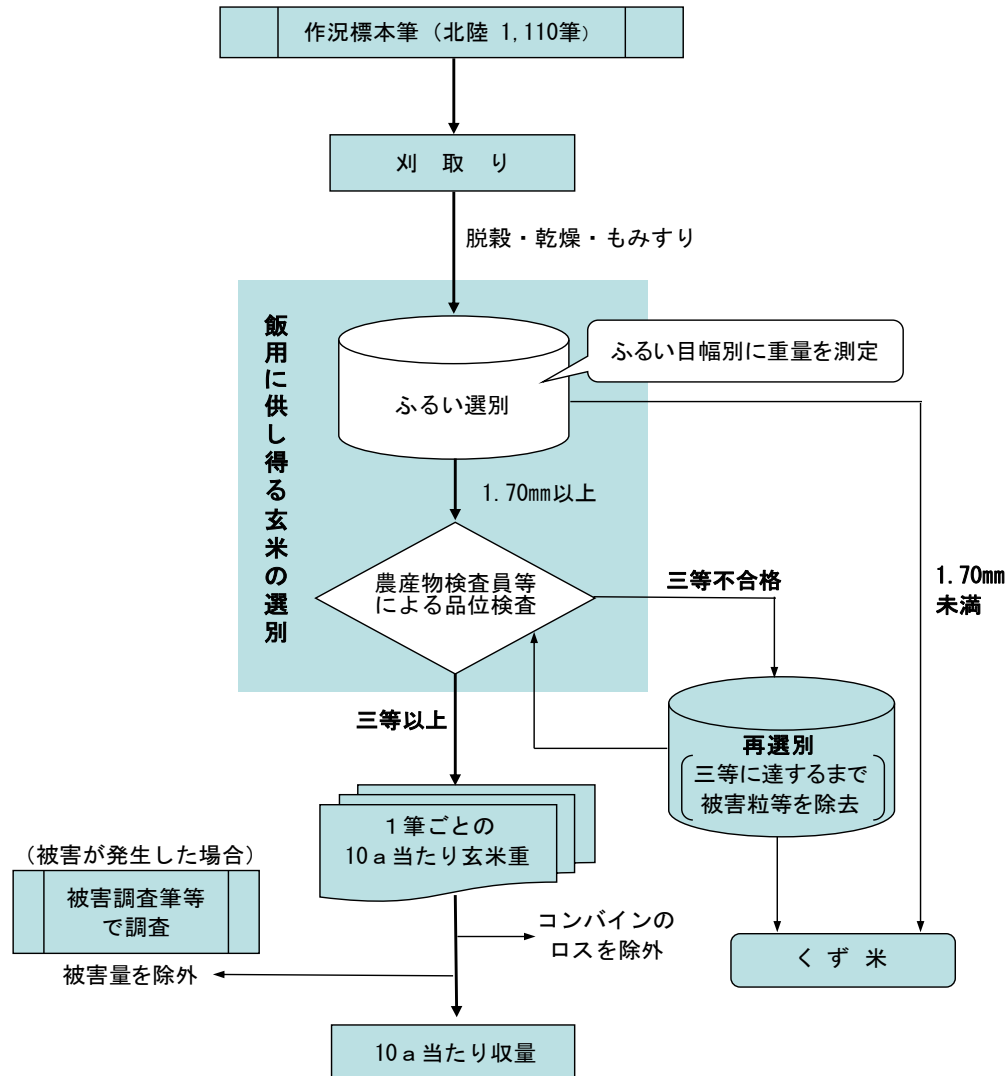
作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10a当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握する。

## 【参考】

### 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



## 6 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1 m<sup>2</sup>当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1 m<sup>2</sup>当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不



良の5段階で表している。

- (6) (2)～(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95%～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

作況指数の算出に用いるふるい目幅

新潟県	富山県	石川県	福井県
1.85mm	1.90mm	1.85mm	1.90mm

- (8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。

## 7 作柄表示地帯とそれに含まれる市町村

県	作柄表示地帯	市町村					
新潟県	岩 船	村上市	関川村	粟島浦村			
	下 越 北	新発田市	阿賀野市	胎内市	聖籠町		
	下 越 南	新潟市	燕市	五泉市	弥彦村	阿賀町	
	中 越	長岡市	三条市	柏崎市	加茂市	見附市	田上町
	魚 沼	出雲崎町	刈羽村				
	上 越	小千谷市	十日町市	魚沼市	南魚沼市	湯沢町	津南町
佐 渡	糸魚川市	妙高市	上越市				
富山県	富 山	佐渡市					
石川県	加 賀	富山県下全市町村					
	能 登	金沢市	小松市	加賀市	かほく市	白山市	能美市
		川北町	野々市市	津幡町	内灘町		
福井県	嶺 北	七尾市	輪島市	珠洲市	羽咋市	志賀町	宝達志水町
		中能登町	穴水町	能登町			
	嶺 南	福井市	大野市	勝山市	鯖江市	あわら市	越前市
	坂井市	永平寺町	池田町	南越前町	越前町		
	敦賀市	小浜市	美浜町	高浜町	おおい町	若狭町	

## 8 利用上の注意

- (1) 本調査についての確定値は、「令和2年産水陸稲の収穫量」として令和2年12月上旬に公表する予定である。
- (2) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	1, 234, 567	123, 456	12, 345	1, 234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	1, 235, 000	123, 500	12, 300	1, 230	123

- (3) 表中に用いた記号は次のとおりである。  
「△」：負数又は減少したもの。  
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
- (4) この統計表に記載された数値を他に転載する場合は、「令和2年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）（北陸）」（北陸農政局）による旨を記載してください。

### 【ホームページ掲載案内】

○北陸の各種農林水産統計調査結果は、北陸農政局ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/> 】

○各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 [https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html) 】

### お問合せ先

#### ◎本統計調査結果について

連絡先：北陸農政局 統計部  
生産流通消費統計課  
電 話：（代表）076-263-2161 内線 3647  
（直通）076-232-4895

連絡先：北陸農政局統計部（新潟県担当）  
電 話：025-224-1441

連絡先：北陸農政局統計部（富山県担当）  
電 話：076-441-0340

連絡先：北陸農政局統計部（石川県担当）  
電 話：076-241-3175

連絡先：北陸農政局統計部（福井県担当）  
電 話：0776-22-3676

#### ◎農林水産統計全般について

連絡先：北陸農政局 統計部  
統計企画課 企画係  
電 話：（代表）076-263-2161 内線 3623  
（直通）076-232-4892



### 政府統計

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>